

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270500309		
法人名	医療法人守生会		
事業所名	医療法人守生会グループホームひまわり		
所在地 (電話番号)	〒037-0016 青森県五所川原市字一ツ谷508番地12 (電話) 0173-34-5551		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 1月 20日	評価確定日	平成 21年 3月 4日

【情報提供票より】(平成21年1月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5 階建ての 階 ~ 4 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	6,000~冬期12,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(1月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.7 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人守生会 中村整形外科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

整形外科医院の4階ワンフロアーに居住部、リビングキッチン、浴室、トイレを設置改装しワンユニットのホームを運営している。既存の建物の中に設置しているため構造上の制限があるが、逆に入居者にとっては居心地のよい雰囲気になっている。同じ建物の中に診療所もありまた診療所の医師や看護師などが、度々様子を見に来るなどされているので、入居者やご家族も信頼されている。地域の中にはホームの存在が十分認知されており、町内会や近所の小学校などと相互に交流を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特別な改善点はなかったものの、更なる充実を目指し職員一丸となり再度評価にあたっている。その中でキャラバンメイトの選出を計画し、認知症普及活動に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は全職員で10月頃より取り組み、会議の中でそれぞれが評価したものを全職員で話し合い、認識を共有して自己評価を行っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	運営推進会議では防災に関して話し合いが行われ、緊急時の地域の支援について議案が上がったが、建物の構造上、救援者が巻き込まれる可能性があるため建物から脱出した際に利用者を保護することとなっている。このように地域から積極的に意見が上がり、それに基づき体制作りを行い運営会議を活かした運営を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	家族へケア会議への参加を促し、積極的に意見表出が出来るように取り組んでいる。また、家族への報告は定期的に行い必要があればその都度意見交換を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との関わりは、町内会の納涼祭への参加や地区の小学生が気軽に立ち寄れる状況である。また、定期的に老人クラブの方が慰問に来られ地域交流は充実している。近所の商店や床屋の方は入居者の顔を覚えていただいている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解しており、管理者と職員はその時々にあった理念を掲げるために年に1度は見直している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は1日に1度は理念を唱和することにより、理念を共有し実践に取り組んでいる。季刊広報誌には毎号に事業所の理念を掲載している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の納涼祭や文化祭に参加している。また、近所の理髪店の利用や通院で地域住民との交流がある。また、地域老人クラブの慰問、近くの小学生も毎年遊びに来るなど地域との交流がある。		地域住民や家族に対してホームの存在意義や認知症の理解を得る取り組みは評価できる。今後ホームとして職員の中からキャラバンメイトを出し、認知症普及活動に取り組みたいようなので、引き続き地域貢献に取り組んで、更なる充実を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、評価の意義とねらいについて話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。事業所の行事、自己評価への取組状況、緊急時の対応、防災関係等意見交換を行いサービスの向上に活かしている。		
6	7	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市地域包括支援センターへホームの広報誌を配布している。毎月開催される地域ケア会議に参加し会議の中で各種サービス提供能力、調査やケアマネジメントの流れ等情報交換したり相談したりしており市担当職員と課題解決やサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度等の養成研修を終了しており、内部研修で職員への理解向上を図っている。対応が必要と思われる利用者には家族と協議し支援に結びつけていく体制を構築している。		
8	9	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。参加した職員は研修報告を行い、マニュアルの理解を深め高齢者の虐待防止を徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際には、利用者や家族に説明し十分な理解・納得を得ている。また、入院等による退居時には受け入れ先の担当者と連絡、必要な情報提供を行い退居による不安を与えないよう支援している。		
10	12	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族に対して本人の健康状態、受診結果を報告している。金銭管理は出納帳にて承認を得ている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回のケア会議には、家族に参加を呼びかけて意見を述べてもらっている。また、毎月の家族向けのお便りの中に苦情の窓口を明示している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職については入居者に早めに個別にお知らせしてダメージを小さくするとともに引継ぎを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立てており、職員全員が研修に参加している。研修受講後は報告会を行い、報告書は職員が何時でも見ることができるよう備え付けている。また、内部研修では同法人の医師による、誤嚥、AEDの使い方、緊急時の人口呼吸等の医療関係の研修機会を作っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、グループホーム協会の役員をしており、他同業者同志との勉強会の開催、夏祭りや運動会など相互訪問の活動を通じてサービスの質の向上への取り組みをしている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族の意向に沿ったサービスとなるよう十分話し合いを行っているので違和感なく徐々に馴染んでいる。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のできること、嫌いなことを確認しながら協働し、ともに支えあう関係づくりをしている。簡単な料理の手伝い、誕生会には男性利用者があいさつをするなどお互いを尊重し、支えあうよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の関わりの中で声をかけ状況の把握に努めている。入居前・入居時に本人・家族から思いや暮らし方についての情報収集しアセスメントに記載して本人本意となるよう検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントを導入し、家族を交えて検討し、介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月で見直しを行い、心身の状況が変化したときその都度再アセスメントを実施している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院は、入居前の主治医をそのまま継続して支援している。自宅への外出や帰宅願望の方に対して要望に応じて柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、耳鼻科等希望に応じてかかりつけ医の受診を支援している。通院が毎日継続するときは家族に協力を求めることがある。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を整備しており、重度化した場合に備えて早い段階から利用者、家族、医師との話し合いをしており、職員は全員方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所全体で本人の自尊心を傷つけないように、目だたずさりげない言葉がけに配慮するなど職員の意識向上をはかっており、利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしており理髪店や通院、自宅への外出など臨機応変に個別支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者と職員と一緒に会話をしながら楽しむ雰囲気づくりに配慮している。準備や後片付けは入居者が職員と一緒にできる範囲内で行なっている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午後の時間帯に入浴している。利用者の希望や習慣等に配慮するとともに、つかりすぎの防止や洗身等の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握しており、書道の練習、園芸の水遣り、家事、手芸などの場をつくり楽しめるよう支援している。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日には利用者の体調を考慮しながら、近くの公園への散歩、スーパーへ買い物に行くなど戸外に出かけられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者虐待防止マニュアルがあり、全職員は身体拘束を理解しており身体拘束は行なわれていない。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は扉に鍵を掛けていない。階段は自由に昇降できる状態にある。エレベーターには危険防止のため職員が同行している。夜間は防犯のため施錠している。また、不審者対策として1階入口付近に防犯カメラを設置している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時の誘導の仕方、避難場所を決め消防署に報告している。年2回利用者とともに避難訓練を行なっている。居室には避難経路を掲示している。</p>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>医院の栄養士が作成している献立を参考にして栄養バランスに留意したメニューにしている。食事の摂取状況はカルテに記入し、申し送り等で職員全員が情報を共有し栄養や水分確保の支援をしている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症・食中毒のマニュアルがあり、手洗い・うがいの徹底や内部研修を行い予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾ったり、居間や食堂には利用者や老人クラブから送られた手芸品を壁に掛け居心地よく過ごせるよう工夫している。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド・ロッカーのほか、利用者自身の書道作品、家から写真、筆筒、仏壇等をもってこられており、馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

 は、重点項目。